

江島四郎



行發・社恵の望希



一、はしがき

今日にては、ユダヤ人が怖るべき民族であるといふことを知らない人は極めて少いと思ふ。併しユダヤ人が果してどんな民族であるか其の本体をしつかり掴んでゐる人は殆どないと云つても過言ではないであらふ。

最近の新聞紙にも屢々ヨーロッパに於て、アメリカに於て或はアジアに於て、彼等ユダヤ人が暗躍してゐることを報じてゐる。

ユダヤ人に就いては、これまでに可なり多くの文獻が出てゐる。最近になつては特にユダヤ人に關する出版が目につくやうになつたやうである。

併し我國に於てユダヤ禍の問題について論述するやうになつたのは特に大正年代以降のことであり前ヨーロッパ大戰の初期頃からである。そして其の當所にあつては單に外國人の所論を模倣した所謂受賣的のものであつ

て日本人の目から見たものであつたり、日本の立場から見た確固たる認識のもとに書かれたものではなかつた。又それ程の關心を拂ふ必要もなかつたものである。

曾て大阪毎日新聞社の副社長をしたことのある故渡邊己之次郎氏の書いた「ユダヤ禍論」なる書物は出版された當時は人々の非常な興味をひいて讀まれたものであつた。又其の後になつて四王天中將が藤原信孝なるペンネームで書かれた「第三インターナショナル」なる書物も可なりの興味あるものであつて、其の中には、ユダヤ人についてウント突込んだ深刻な論述をなしてゐる。小説の方にもユダヤ人をモデルにして書いたものがあるが、外國小説の翻譯としては谷譲次氏の苦心になる「ユダヤ人ジユス」なるものがある。英國出版のものとしては「シオンに於ける長老會議の議定書」なるユダヤ人の世界攪亂の陰謀を暴露したものである。此の書物は此

頃になつて四王天中將が翻譯されて出版されたやうであるからもう各書店の店頭で陳列されてゐることであらふ。武藤貞一先生もこれまで度々ユダヤ問題を取扱つた書物を出して居られる。最近の發行になるものとしては米國にて出版されたモズレーの「ユダヤ人と其の運命」なるものがある。これは特に注目に値するもので極めて詳細に廣く深く調査し資料を蒐集の其の結晶になつたものであつて、なか／＼深刻なものであるし又興味のあつるものである。併し何れの雑誌にして、パンフレットにしても又單行本にしても大部分は昌頭から、ユダヤ人はとか、ユダヤ民族がと云つた具合に書き述べて、それから彼等活動の本题に入つてゐるのであるから、世間一般の人々にはユダヤ問題の書物や記事を讀みながら一体ユダヤ人といふものが如何なる民族であるのか解つてゐないので、ウンさうかと云つた具合にピンと來る何物もないと思ふ。

豫備的知識として多少知つてゐると云へば單にユダヤ人とは鷺鼻をした白人と云つた程度の極めてほんやりしたものであり、ヨーロッパ人種かアジア人種かの區別などは全然解つてゐないやうである。

鷺鼻をした白人などと云つた認識のもとに白人を見るならば、其の中には相當多くの鷺鼻をしたものや、それに近い者を發見するであらう。特に日本人の如き鼻の低い者の目から見ると大部分の白人は何うも鷺鼻に見易いものである。

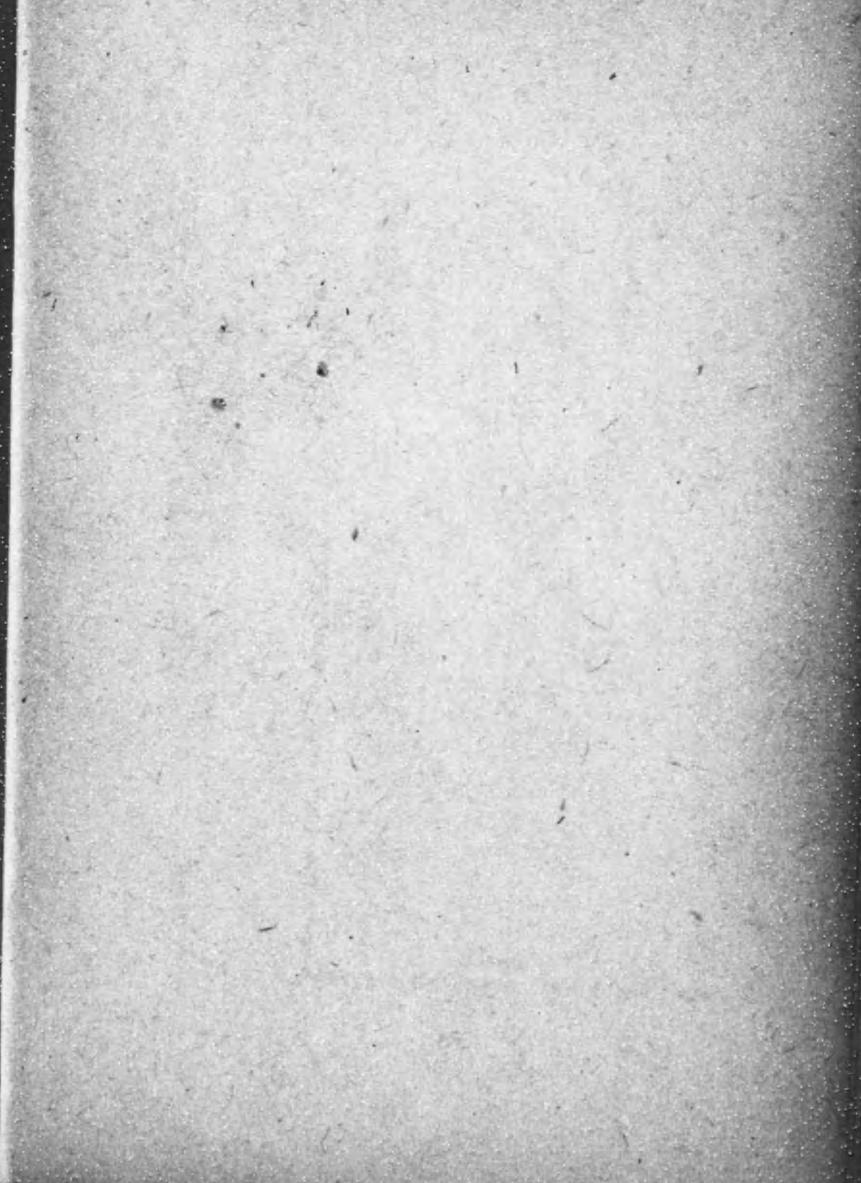
其の結果は直ぐ、彼等はユダヤ人なりとの過つた斷定をなすことになり勝である。

又中にはユダヤ人とは金持だとか、けがれた民族だとかいつた寔に漠然たることしか知つてゐないやうである。

ではユダヤ人とは如何なる民族か。私はユダヤ人について出来るだけ分

り易く、彼等の發祥地から又人種的に歴史的に記述して、其の由來を明かにし次で彼等の世界を舞臺とする怖るべき暗躍の事實其他について述べやうと思ふ。

江 島 四 郎



ユダヤ民族の正体

目次

はしがき

一、ユダヤ民族と發祥の地

二、ユダヤ民族の漂泊と迫害の歴史

三、ユダヤ國再建の運動

四、ユダヤ人は金持か

一

五

八

二

五、歐洲大戰中に於けるユダヤ民族の活躍……………

一五

六、ユダヤ民族の國家破壊……………

三三

七、ユダヤ人の危險性と吾人の覺悟……………

三五

附、創作

李玉蘭……………

四一

(裝幀)

宮永岳彦

ユダヤ民族と發祥の地

惜てユダヤ人といふものは一体、何處に發祥した民族であるかと云ふに、其の地は
 ずつと昔に溯つて見ると今日尙明白になつて居ないやうであるが、一説にはヨロ
 ツパに近い小アジアのコーカシャのずつと北方に居た民族であつて、それが次第に南
 下してコーカサス山脈を越して氣候の溫和なるトルコからシリヤ地方に來て、更に其
 の地つづきであるカーナンの地、即ちパレスチナの地方に來て繁榮したものだと思は
 れてゐる。

又一説にはバビロニア地方に起つたもので紀元前二千年の頃にユダヤ人の酋長であ
 るアブラハムに連れられてパレスチナの地方に移住したものと云はれてゐる。

人種學的にはセム派の一民族であつて鼻型大であつて、多く鰐鼻をなしてゐるアジ
 ア人種である。今日までユダヤ人と云へば白色人としか考へられてゐないのである

が、決して白色の者ばかりではない。皮膚の黄い者もあるし、褐色の者もある。又黒い者もある。これ等のやうに色々の皮膚を持つことになつたのは結局彼等が各地に分散し長年月の間に其地の環境から受けた影響から來たものであらふと想像されるのである。

今日ユダヤ人として典型的の者は彼等の祖國たるパレスチナの地方よりも寧ろアラビヤあたりの人々の間に多く見られると云はれてゐる。

彼等は古來、ユダヤ教なる一神教を信仰してゐるものである。所で此のユダヤ教なる意義は極めて不定なるものであつて、キリスト教とか佛教とか云つたものゝやうに比較的明白なものではない。

大体に於てはキリスト出現以來キリストを救世の主と認めないユダヤ民族傳統の信仰と云ふならば其の方がよいやうな實に漠然たるものであると云つて置く。

彼等はキリスト教徒が聖書を尊奉するやうに、ヘブライの經典を盲目的に尊奉してゐて我等は神の選民として、此の世の終末には必ず世界の民族の中で最も優秀な民族

として選えらび殘のこされ、他民族の上に君臨きんりんしうるものと信しんじてゐる。

此の民族は最初からユダヤ人と呼よばれたものではなく、最初はイスラエルと呼よんでゐたのである。

創生記の傳説によると、アブラハムの孫のヤコブといふ者があつた。此のヤコブの事をイスエルと呼んでゐた。イスエルと云ふのはユダヤ人の言語たるヘブライ語によると「神を見た者」と云ふ意味であつて、創生記の傳へる所によれば「天使を見た者の後の名」といふことになつてゐる。

そこでヤコブの後裔たる民族のことを總てイスラヘルと云ふのである。

ヤコブには十二人の子供があつて、これが十二族に分かれたのである。そして其の内の一族をユダヤと呼んだのである。

故に今日、ユダヤ人とも云ひ、時に又イスラエル人とも呼ぶが結局は同一種族の別名に過ぎないのである。

今日ユダヤ人の使用する定語と云ふものはないのであるが、元來はヘブライ語なる

ものは祖先の名「ヘブル」から來たものであると云ひ又「他地方より」との義とも云はれてゐる。即ち彼等が移動民族であるところから來たものであらふ。

ユダヤ人の自慢は「我等には祖先にアブラハムあり、モーゼあり」と云ふのである。前にも述べたやうに彼等の宗教としての對照は只神といふ漠然たるものであつて、祖先の教へとして盲目的に信じ多部に形式や律法と云ふものを重んずるのみで内心の信仰といふものは全然顧みないと云つてもよいのである。

故にキリストの如きはユダヤの宗教を評して外面は美はしきも、内心汚れたるものとして難じたのである。そして別に所謂キリスト教なる宗教をたてゝ、それが次第に其の勢力を得るに至つたので、これは宗教的にも又政治的に見ても危険であるといふので、反對派のために十字架の上に磔殺されることになつたのである。

かうした事があつて以來ユダヤ人は他民族、つまりキリスト教徒より賤民なりと呼ばれ、キリスト教の廣まるにつれて一段と嫌惡され果ては甚だしい迫害を蒙る原因となつたのである。

ユダヤ民族の漂泊と迫害の歴史

ユダヤ民族は紀元前千五百五十年に一度、エジプトに移住して行つたのであるがエ
ルサレムに對する望郷の念やみ難く同千二百二十年頃、ユダヤ興の祖なるモーゼに従
つて其の地を去つて久しい漂泊の後、再びパレスナナの故郷に歸つて來たのである。
そしてダビデ及ソロモン相次で王となつた頃には國勢が大いに振つたものであつ
た。其の後になつて紀元前九百五十三年の頃、前述のヤコブから出た十二族の内、十
族はイスラエル王國を建設したのである。そして其の第一王をイエロボアムと呼んで
最初はシケムに都したのであるが、後になつてサマリアに移つた。所が紀元前七百
二十二年に至つてアツシリヤ王サルゴン及びバビロニア王のために攻られて國は遂に
滅びてしまつたのである。

猶て十二族の中の他の二族は別にユダヤ王國を創立したが、後には他國の屬國とな

つてしまつたが、紀元七十年になつてローマの軍隊によつてイエルサレムを陥れられ百三十年に起つた反亂の後には其の多數は四方に離散してしまつて、これからユダヤ民族流寓の歴史が始まるのである。

併しユダヤ人は故國恢復の念を失はず屢々獨立運動を企てたけれども遂に其の目的を達することが出来ず、各地のユダヤ人は悉く迫害、逆境の下に呻吟することになつたのである。

時にキリスト教が各國の國教となるに及んで一層、其の甚だしさを加へて來て十字軍の戦争が起るに及んでユダヤ人の虐殺、迫害が次から次へと起つて、十二世紀に入ると千二百九十年イギリスが先づユダヤ人を國外に追放し、千三百九十五年にはフランスが又これに倣ふに至つた。

イスパニアに於ては、かのコロンブスがアメリカを発見した千四百九十二年にユダヤ人の國外遷去を命ずるに至つた。

ポルトガルは其後三年を経てユダヤ人の國外追放を斷行することになつた。

こゝに於てユダヤ人は漸次、神聖ローマ帝國、殊にドイツ及びイタリヤに集まるに至つたのである。中でもトルコなどは彼等の入國をさへ勸迎したので入國者は可なり多數に達した。イベリヤ半島のユダヤ人にてオランダに移つて行つた者たちも少からずあつた。

併しドイツにあつては彼の有名なマルチンルーテルが宗教上の大改革をなすに及んで、ユダヤ人に對する態度が次第に惡化して來て、彼等を國外に追放するやうになつた。

尤もドイツに於てもフリードリッヒ大王の時に一時追放したユダヤ人に對する態度を寛やかにしたことがあつた。

元來が自由主義の國であるのでイギリスはドイツとは反對に一度はユダヤ人を追放して見たものゝ後には彼等の入國を許可するのみでなく歡迎さへするに至つた。そして彼等に市民權を與へ或は選舉權や被選舉權までも附與するやうにまでなつた。これ以來、今日に至るまでイギリスに於てはユダヤ人が勢力を有するに至つた大きな原因

となつたのである。イギリスでは首相を始め要路の大官の中にユダヤ人が登場して勢力を張り國策の遂行に當つたことがある。ケンブリッヂ、オクスホード等の有名な大學の教授中にもユダヤ人が可なり澤山席を占めてゐることもある。

獨りロシアに於てはアレクサンドル二世及び三世が寛典を施したにも拘らず、ユダヤ人に對する虐待を少しも止めず、千九百五年の日露戰爭當時などに於ては、ユダヤ人大虐殺の悲惨事すら起すに至つた。

かうした事變は全ユダヤ人に對する一大不安を感じしめ其の結果、近代に於ける祖國恢復運動の先驅をなし、デヨビチオン協會なる秘密結果を設けて遂にユダヤ國再建を唱導して全ヨーロッパに亘つて多數の會員を有するに至つたのである。

ユダヤ國再建の運動

ルーマニア及ロシアにあつたユダヤ人達は前に述べたロシアにあるデヨビチオン協

會の保護の下に、パレスチナに移住して農事的植民地をつくらうと計畫した。

故に一時はパレスチナの地に流れ込むユダヤ人は急激なる増加を來し多くは葡萄の栽培に従事したものであつたが、千八百九十二年、トルコ政府はロシアを僞つてユダヤ人の移住を禁ずるに至つたので、此の計畫は中途にして一頓挫を來した。

併しこんなことでユダヤ人の畫策がやまる筈がなく千八百九十六年に及んでオーストリアのウインにゐたテオドル、ヘズルがユダヤ國の發表をなすに至つて、ユダヤ人の復古思想は復活して、ユダヤ人の緊急問題として其の唯一の解決法たるユダヤ國建設のためジオニスト運動が起り、千八百九十七年、スイスのバーゼルに第一回ジオニスト會議を開き以來、各地に支部を設け其事業は着々と進行し其後毎年ジオニスト會議を開いて謀議畫策をなしてゐると云はれる。

併し此の會合は第一回のジオニスト會議以後は秘密の間に行はれてゐるために其の開催の場所は何處であるのか不明であるとのことである。

此の會議は亡國の民、ユダヤ人の祖國再建を目標としたものであるが、宗教的にも

の此の會議に於て何處までもキリスト教徒の壓迫に耐へ、ユダヤ獨特の信仰を堅くして行ひを勵むべきことを唱導するのである。

又時代の進むに連れて次第に彼等の運動は激化して、單にバレスチナ祖國復活を實現しやうと云ふ目標を超越して既成國家を破壊し世界を打つて一丸とするユダヤ國建設の陰謀とまで發展して來たものと見る事が出来る。

それから何して既成國家を破壊するかの問題であるが、これは所謂三日政策といふものがある。第一はスポーツである。即ち運動乃至遊戯と云つた方面を極速進しに盛んならしめ人々を熱狂せしめることによつて人心の情落を圖る。第二にはスクリーン、即ち映畫を利用して人々の道徳心を破壊しようとするのである。某國の映畫などは見て非常に面白いやうであるが、其中に道徳心を踏み破り或は危險思想を不知不識の間に吹き込むやうなものが大部分を占めてゐる。第三にはセックスである。人間の性愛方面を惡用して戀愛を高潮したり、社交クラブを作つたりして人心の情落を企圖することによつて他民族の弱体化をはからんとするのである。

右のやうな所謂三政策があると共にまだ他に三つの政策がある。

一つはカール、マルクスの宣言した共產主義による社会組織の實現、即ち思想的に既成國家を破壊しやうとする計畫である。

今一つは金權をユダヤ人の掌中に收め黄金力によつて世界を支配しやうといふ物質的な企圖である。今日一般世人がユダヤ人と云ふと直ぐ拜金宗を聯想し金持なりと考へるやうに、それ程にまでなつて居るのである。

尙一つは學問的に優位にたち他民族を眼下に見下さうと云ふ意圖である。今日の世界は殆ど右に述べたやうな計畫に随かに禍されてゐる。最も怖るべきは共產主義者一派の暗躍である。日本なども、これまで其の禍を多分に受けてゐたものである。大体この共產主義なるものゝ本尊は彼のカール、マルクスであり其の思想の實行者並びにそれを取り捲く者の内で目ぼしい者は殆んどユダヤ人である。

ユダヤ人の祖國再建の目標が世界の平和破壊へと進んで來たことはユダヤ人にとつては悲しむべき問題であり他民族にとつてもゆるがせに出來ない問題でもある。

ユダヤ人は金持か

茲で少し方面をかへて、一般世人が云ふやうに果してユダヤ人が金持か何うかを述べて見やうと思ふ。

前にも述べたがユダヤ人は世界の商權を掌中に收めて其の資金力によつて他民族を支配しやうと企圖してゐることは否めない事實である。併しユダヤ人全体を眺めるならば、彼等とて決して金持ではないのである。

彼等の中に金持と見做しうる者はさう澤山あるものではない。大体これまでユダヤ人の住んで居たり現在住んでゐない地方は勿論彼等の祖國であるパレスチナが中心となしてゐるのであるが其の南部北サマリア東ヨルダン河、死海附近、南はイヅメア、西は地中海方面であるが廣く全世界に亘つて居住してゐて其の数は千三百萬乃至千五百萬位と見られてゐる。今次のヨロロツバ大戦前までは、ヨロロツバに約五百

萬、アメリカに四百萬、そしてアジアに四百五十萬其他に亘つて散在してゐる。我國にも阪神地方に三、四千人位居る筈である。彼等の數は全世界の人口から見れば百分の一にも足りないものであるが、此の少數のユダヤ人の内には全世界のありとあらゆる經濟網に喰ひ入つて強大なる勢力を張つてゐるものがある。

特に北アメリカに於けるユダヤ人の勢力は大したもので説によればアメリカ總財産の八割はユダヤ人の掌握する所となつてゐると云はれる。タルボットによれば合衆國の國富總額は三千二百十億ドルとの事であるから彼等の掌握する所の財産は二千三百億ドルを越し實に驚くべき勢力を持つてゐるものである。

然もアメリカ財界の中心たるニューヨークは彼等の活躍の本舞臺であつて目ぼしい事業は悉くユダヤ人の手に收められてゐるといふので惡口をたゞく者はニューヨークをジューヨークとさへ呼んでゐるとの事である。イギリスに於てもユダヤ人は財界を牛耳つてゐる。

しかし是を以て全ユダヤ人が金持であると考へてはならない。ヨーロッパでもアジ

アでもユダヤ人は大体狭い一區劃に特殊街を作つて其の中に押し合ひ、へし合ひ暮してゐるのである。たとへ人口が殖えて來ても土地は元のまゝで少しもひろげられないので、街路は段々と狭くなり薄暗くなつて道路の如きもオーストリヤやドイツなどの或る所では恰も迷路のやうに曲りくねつてゐたものである。草木もなければ、花などの作られる所もなく、陽もよく當らない。ひどく云へば、ろく／＼空氣すら通らないやうな汚れた中に住んでゐるものが多かつたのである。

濃んだやうな風が吹きまくり惡臭に満ちみちた醜惡な住家が多いのである。男も頭を下げて、物におじけたやうに、こそ／＼と歩き女は年は若くても早く衰へてしまひ、澤山の子供を生んでも大部分は死んでしまふ。全く自由な生活から絶縁されてしまつて世間の一般的用語からは遠ざかり文化も工藝も思想すらない状態である。

互に人を中傷し疑惑し、惡口をし喧嘩をして濁り切つて渦を巻いて住んでゐるのである。誠にだらしがなく悲惨なものである。こゝに數年前迄のドイツあたりのユダヤ人街は汚ない卑しい踏みにじられた同族一團の住家であつた。街の惡意に狩り立てら

れるかと思へば大にさへ追はれる有様の者が大部分だつたと知れば誰しも驚くであらふ。

無智なユダヤ人達には、これが全く不可解な現象で其の原因が何處から來てゐるのか知らないのである。ほんの僅一部の者たちは其の原因が何から來たものか、すつかり解つてゐるのである。

こんな状態で幾代も幾代も過として來たユダヤ人達は何時の間にか怒ることをすっかり忘れてしまつたのである。どんなにひどく取扱はれても只「ニヤ／＼」と笑ふだけで済まし得られるやうになつた。

併しだらしない悲惨な生活の中にあつてもイザと云ふ時には民族的な團結がある。親密に秘密を分け合ふことも出来るのである。

ユダヤ人には政府もなければ土地もない。普通一般の生活すらなし得ない貧乏人である。無一物のユダヤ人が何百萬人がある。乞食の生活をしてゐるやうな有様の者があるのである。

併し前にも述べたやうに彼等の何萬分の一にか當る者は位置も高いし美服を纏ひ豪華な家に住み最高級の自動車を行き交はせてゐる。貧乏人であらふと彼等は皆一様にもの靜かな境遇、純潔たる生活、何の驚愕さへ感じない生活、黄金の花、黄色の微風の和やかに吹く豪華振りを夢想して生きてゐる。

其の胸奥に秘められたものは民族的な血の教へであり尊厳厚きヘブライの宗教である。此の世の中に於て唯一絕對のものは只イスラヘル神、久遠無限のエホバがあるのみである。此の民族の傳統を學び現實の生活は何うあらふとも其の生活の苦しみ、堪へ忍ぶ勇氣を持つてゐる。未來への熱狂がある。それを想つて彼等ユダヤ人は青白く秘かに微笑み、凡てを失つても後に残るものは實に彼等の血と神の聖書である。四千年以上の長い間、この聖書を傳へて來てゐるのである。ユダヤ民族として彼等自身が聖書であり遺産である。又全財産でもあるのである。聖書は完全に彼等のである。安息日の禮拜堂で上流に遊ぶ者も下賤の者も一齊に魂の底から叫ぶものは「ヘブライの經典を除きては吾等に屬する何物もなし」と。

これがユダヤ人の現實の姿である。勿論今日ユダヤ人中にはアメリカを中心として全世界の經濟網に手を伸ばして其の商權獲得に熱狂してゐる觀がないではない。併しそれも今次の世界大戰以來極東からヨーロッパから次第に驅逐されつゝある。自由主義、資本主義の王座にある彼等も今や其の活動範圍を狭められて來てゐる。けれども、これを以て彼等の力を輕視することは絶対に出來ない、普通自在權謀策に巧妙なる彼等のことである。これまでも彼等は其の有する經濟力によつて一國の政治を左右したことは屢々あつたのである。今日イギリスをうごかしアメリカを動かしてゐる魔の手は何れもユダヤのバックあることを見のがすことは決して出來ない。

一体ユダヤ人の暗躍が如何に目ざましく又怖るべきものであるか。それを私はモズレーの「ユダヤ人と其の運命」なる書中の一節からあげて前ヨーロッパ大戰中における活躍の物姿を紹介し現在目にはつきり映らないものではあるが必ずや怖るべき謀略に驚奔してゐることを想像して貰ひたいと思ふものである。

歐洲大戰中に於ける

ユダヤ民族の活躍

ユダヤ人の祖國再建の問題をもう少し溯つて記して見るならば、夫は二千五百年此の方のことであり、それこそ熱烈なユダヤ民族の何よりの念願である。

此の點について前にも多少述べておいたけれども、此の長い間、彼等は絶えず祖國パレスチナの獨立再建のために種々の謀議策に耽つて來たのである。

然し此の民族的念願達成の問題は決して容易なことではないのである。何うしても何か此の世界に怖るべき回天動地とも云ふべき一大事變にても起らない限りは先づ其の機會を得ることは困難と云はなくてはならない。

そこでユダヤ人は常に世界的大事變の到來することを長い間、期待してゐたのであ

る。所が千九百十四年の夏に起つた彼のヨーロッパ大戰こそは、正に彼等の期待に期待してゐた所のものであつたと云ひうるのである。

ユダヤ人は是こそ我等民族の數世紀に亘る念願實現の絶好の機會であるとして歡喜の聲をあげたものであつた。

初て此のヨーロッパ大戰の舞臺には、どれ程ユダヤ人が活躍したか想像すら出来な
い程であつた。特に注目に値する人物の登場のみでも五十人に餘る者があり、それが
何れも誠に華々しい活躍をなしたものである。是等の主なる人物の中で特別に重大な
役割を演じた者については詳細に述べる考へであるが、其前に先づヨーロッパ大戰と
ユダヤ民族との間に寔に奇蹟的な繋がり合ふあることを述べて見ようと思ふ。

所で此の大戰の起るべきことは何と不可思議のことであらふか。此のことは幾十世
紀か前のイスラエルの經典に豫言してゐることである。

又三十七年前のユダヤ長老會議の決議の内にも世界大戰の何時かは來るべきことを
述べてゐる。

然も世界大戦には奇しくもユダヤの歴史に於て最も悲愴な暗黒の記念日と云はれる、チズリユウの日に始まり、そしてユダヤ人の歡喜の記念日である、チャヌカの祭の日を終つてゐるのである。

前の暗黒の記念日といふのは、二千五百年の昔、バビロン王及びアッシリア王によつて祖國の首府エルサレムのあらゆる寺が焼かれ、ユダヤ民族が國外に放逐された日である。

又歡喜の記念日といふのは、ユダヤ人がチャヌカの祭を祝ふ日なのである。此の日はそれは二千年の昔、ユダヤ人中の傑物マツカビウスがエルサレムを占領して彼等尊信の寺を再建した喜びの日である。

而してヨーロッパ大戦を大戦として、あれまでに擴大せしめることになつたのは、イギリスの参戦であつた。故にヨーロッパ大戦なるものはイギリスの参戦によつて世界戦にまで發展したものと見ることが出来るのである。

此のイギリスがドイツに對して宣戰を布告したのは實に千九百十四年八月四日のこ

とであつて此の日は、丁度前に述べたユダヤ暦の暗黒の記念日に相當するのである。
而して一方ドイツ側が所謂聯合國側に對して休戦の提案をなした日は、イギリスが
エルサレムを占領した日に當り、此日はユダヤ暦の歡喜の記念日に當るのである。

世の歴史家は何れもヨーロッパ大戦は千九百十八年十一月十一日に行はれたベルサ
イユ會議の調印を以て終つたものとなしてゐるが、事實上ヨーロッパ大戦はエルサル
ムの占領された日に終つたものと云ひ得るのである。

これを偶然の符合と云ふならば、それまであるがユダヤ人とヨーロッパ大戦との
間には斯くも遂に不可思議極まる因縁の存在することは全く以て奇蹟と云はなくては
ならない。

さてユダヤ人は此の回天動地とも云ふべきヨーロッパ大戦の結果は必ず彼等民族的
念願たるユダヤ國再建の問題が論議され、やがては其の目的達成の運びに至ることを
期待した。

彼等は戦後平和會議にパレスチナ問題を提出して祖國を再建せんが爲に準備工作

として華々しい活躍をなしたものであつた。

しかし彼等の活動を祖國再建の問題に結びつけるならば直接的といふよりも寧ろ間接的なものであつたと云へる。それは兎に角として此の大戦中に躍つたユダヤ人の数は實におびただしいものであつた。

これが平時ならばユダヤ人に對する偏見と憎惡は實に甚だしいものであるが、此の世界大戦といふ大悲惨事の處置に當つては何れの國も皆へ獨逸側であらうと所謂聯合國側であらふと、又民族の如何とか、皮膚の色とか云つたものに關係なく偏見も憎惡もすつかり、かなぐり捨てて、只一途に最優秀の人物を起用することになつた。

若し何か特別に六ヶ數の問題に直面した場合、最適の人物として其の仕事を委任された者は大抵ユダヤ人であつた。

ヨーロッパの風雲が段々と危くなつてイギリスとドイツとの國交斷絶の日が切迫して來ると、元來戦争を甚だしく怖れてゐたイギリスは最善を盡して、これを避けやうと努めたものである。此の危急時態に際會してイギリスの利益を代表してドイツへ送

られた親善使節としての大使はサー、イー、ゴーセンと云ふユダヤ人であつた。

彼の有名な「條約は單なる新聞紙の切抜きに過ぎない」とドイツの宰相が大見榮を切つたのは此のユダヤ人に對してであつたのである。

また大戦中、イギリスはアイルランドの問題で大變困つてゐた、そのためにアイルランドの秩序を保持し幾多の厄介なる問題を處理し且つ其の支持を受けるに最も適任な總督として選任したのは、サー、マツシユウ、ナツサンといふユダヤ人であつた。

尚又大戦中のイギリスの立場は極めて困難な立場に置かれ、これを戰理するためには絶大な財政的な手腕家が必要であつて。此時に當り、大藏大臣となつて此の六ヶ敷い仕事を甘く運用して全く満足の行くまでに遂げ得たのは、ユダヤの出であるアイザック氏であつた。彼は戦後になつてイギリスの最も名譽ある大審院長とまでなつた人である。此のことによつても彼が如何に位大なる財政家であり戦時經濟と云ふ甚だ困難なる仕事をテキパキとやつて除けたのが想像されよう。

此人は當時イギリスのライオンとまで稱へられたことのある人でヨーロッパ大戦の

中頃イギリス、フランス、ロシア三國聯合して戰債の募集を爲すに當つて主席全權として、ニューヨークに渡つたこともある。

ヨーロッパ大戦に當つてイギリスの爲に最も重大な地位に就て大活躍をなした目ぼしい人物は以上の人の他に多々あるが、それが何れも殆どユダヤ人であつたことには誰しも驚かされる。

またイタリーにあつては内閣の主眼にシグナト、マルバーノといふユダヤ人があり、外務大臣であつた。シドニー、ソニノと呼ぶ男爵も又やはりユダヤ人であつたのである。

此の二人のユダヤ人はドイツ大使の策略を覗ひ、其の運動のすべてを失敗に歸せしめたために當時ドイツからは非常に憎惡されたものであつた。

アメリカでは何うであつたかと云ふにヨーロッパ大戦中最も六ヶ敷い問題と考へられたのは、トルコに送る特派使節の人选を如何にするかにあつた。即ち當時トルコ帝國中に包含されてゐた十からの國々に在るアメリカ國民の生命或は財産乃至權益を保

護するためには、何うしても不撓不屈の大精神力家が必要であつた。

此時に當り新様な責任のある仕事を委任されたアメリカ合衆國を代表した者は、軍事的にも又政治的に見ても全然これまでで経験のなかつたヘンリー・モウゲンソウと云ふユダヤ人であつたのである。此人の偉業とも云ふべきものは當時アメリカのみでなく世界を通じて賞讃されたものである。今次のヨーロッパ大戰勃發以來、特に新聞紙上にクロースアップされて來たアメリカの現財務長官なるセーゲンソウと云ふ男は實に此人なのである。アメリカの財政切廻しに躍起となつてゐるのみでなく援ソとか援英のために借款に應じたり武器其他の軍需品の貸與に大奮となつてゐるアメリカの露の大人物となつてゐる。彼の怪腕は前ヨーロッパ大戰當時の活躍の経験から見ても其の怪腕の程が容易に想像出來ようと思ふ。若し今日アメリカのやつてゐることが自國の防衛乃至權益擁護にあると云ふならば結局アメリカ總財産の八割を有すると云はれるユダヤ人一派の財産保護にあると云ふべきである。

ドイツ側には、バーナード・ボンと云ふユダヤ人の博士があつた。此人は前ヨーロッパ

ツバ大戦の初期に臨時大使として重大な使命を負んでアメリカへ自國の人氣取戻し達成のために送られたことがある。

又ドイツが大戦の勃發と同時に五十萬、百萬と云ふ大軍を實に意想外の速度を以て移動し得たのは全くアーサー・バーリンなる一人のユダヤ人があつたからであると云はれてゐる。

結局ドイツ側にあつても又所謂聯合國側にあつても其國の重大事の處置に當つた人物の大部分ユダヤ人で占められてゐたのであつた。それをよく考へて見ると何れもユダヤ人の利益の爲に一脈の聯關々係のあつたことは見逃すことは出来ないのである。

ヨーロッパ大戦は其の當初にあつては兵員の殺傷を最大眼目とした砲彈戰であつたものであるが、戦争の進むにつれて次第にそれが經濟戰へと移り變つて行つた。

そして結局、ドイツ側を代表したものはドイツにあつたヂャコブ・ステック氏であり、所謂聯合國側を代表したものはイギリスのアイザック氏であつて、お互に戦争募集に大馬力をかけたのであつた。此二人は何れも生粋のユダヤ人で、然も非常に有力

な財政家であつた。

想ふにヨーロッパ大戦はユダヤ人を中心とし、指導者として戦はれた経済戦とも見ることが出来るのである。

以上述べたことによつて前古未曾有と云はれた前ヨーロッパ大戦に華々しく登場し活躍をしたユダヤ人の状況を大体知ることが出来たものと思ふ。

此の事實はまことにユダヤ國再建への計畫的前奏曲と考へられるのである。

斯くも大戦に怠りなく聯絡準備したユダヤ人は愈々ベルサイユに於て平和會議が開かれることになる。眞先に祖國再建の重大提案をなすことになつた。

併て此の重大提案をなしたのは、イギリスのユダヤ人會の會長をなしてゐたチャイムウイズマンといふ博士であつて、其の提案と云ふのは次に述べる如き三箇條のものであつた。

一、將來ユダヤ國たらしむる爲めにパレスチナへユダヤ人の定住を認めること。

二、パレスチナへは三百萬乃至五百萬に至るまでユダヤ人を復歸せしむる機會を與へること。

三、パレスチナの管理者としてイギリスを指定すること。(パレスチナは當時トルコの統治下にあつた)

此の三箇條の要求は平和會議に於てユダヤ人の要求通りイギリスの委任統治と云ふ條件を以て承認されることになつたのである。

惜て此のウイスマン博士が右の如き提案をなすに至るまでの裏面をさぐつて見ると次の如き物語が潜んでゐたことを見のがすことは出来ない。

ヨーロッパ大戦が始まつて凡そ一、三ヶ月たつと、もはやイギリスにあつては火薬製造に使用する主要鐵物の不足を痛感するやうな事になつた。是は何うしても解決しなければならぬ重大問題であつて、これを其まゝに放置しておくならばイギリスの敗北は決して免れないことである。

一方ドイツに於ても戰國の大功を収めんために高級爆發藥の製造に全力を傾注してゐた。かうした危険な時に、イギリスに二十五年在住してゐたロシアに國籍を持つて居た前述のウイスマン博士が重大なる提案をなしたものである。

即ち化學者として其名を知られてゐた彼は當時、研究に研究を重ねて其の結果、高級の爆發藥製造に用ふる礦物の有用なる代用物を發見してゐたのであるが、彼はこれを戰秘に附してゐた。併し彼は試みに此の發見物の使用をイギリス政府に申込んだのである。

所が是にはおいそれと直樣應じ切れない條件がついてゐた。即ち此の高級爆發物の代用品たる礦物の使用に對する代償として黄金を要求する代りに、パレスチナを其の壓制者たるトルコから開放せしめ、ユダヤ人の自由と安全とを計る爲に最善の努力を、拂つて貰ひたいとの要求をなしたのであつた。

定に危い事態に直面してゐたイギリス政府は、よし其の要求を容れるのに至難であつたけれども遂にウイズマン博士の提案に應ぜざるを得ないことになつたのである。

かうした次第でヨーロッパ大戰中に、ウイズマン博士との間になされた約束によつて大戰終了するとパレスチナを敗戰國たるトルコから分離してイギリスの管理下に置

く條項がベルサイユの平和會議に於て審理される運びになつたのであつた。

此の一事によつてもユダヤ民族が如何に熱烈にパレスチナへ復歸を切望してゐることを想像出来ると思ふ。

扱てパレスチナに對するイギリスの統治問題は千九百二十年四月二十四日、イギリスに在るサン、レノなる町で催された聯合國側の首腦者達によつて一先づ承認されたのであつた。そして次で千九百二十二年七月二十四日、スイス湖都ジュネーブで開催された國際聯盟會議でパレスチナに對するイギリスの管理は一層確實なものとなり、茲に於て世界中に散在するユダヤ人に對して權利と自由とも取戻すことになり、彼等の祖國再建の問題が實現される運びとなつたのである。

斯くしてユダヤ人は幾世紀かに亘る夢想、睡眠から、やつと覺めて自國再建のために起ち上る第一歩を踏み出した。

ドイツ、オーストリア等は別としてヨーロッパの大部分の國々は彼等に好意を示し其の獨立に援助をなさんとした。

一時はヨーロッパの各方面からユダヤ人達は陸奥として開放されたパレスチナの地に復歸して來た。パレスチナには世界各地のユダヤ發展のために莫大な資金が注ぎ込まれ道路は新しく開かれ鐵道は盛んに敷設され、死海の寶庫は次第に開かれるやうになつた。

工場も建設され、大學も建てられ市街は次第に美觀を呈するに至つた。併しこれまでのユダヤ人の努力のみでは國家の獨立を實現することは出来なかつた。

やがてヨーロッパの狀態に一大變動が來ることになつた。一時はヨーロッパ諸國もユダヤ人に對して門戸を開放してゐたがヒットラーがドイツの政權を把握するやドイツ國內からユダヤ人を追放することになつた。そして彼等の書いた出版物を悉く焼き棄てた。大學、專門學校其他あらゆる學校の教壇からユダヤ人の教師を追放しはじめた。公職に就いてゐたあらゆるユダヤ人を追ひ出してしまつたのである。

これは先の大戦にあつてユダヤ人によつて甚だしき苦汁を嘗めさせられた結果、其の報復手段であり又大戦後のドイツ復興のためにハルマン民族の強固なる團結が

必要である。それには異民族であり殊に陰險極まるユダヤ人の國內に存在することは極めて危険であると見たので徹底的な追放手段を敢行したのであつた。

特に今次のヨーロッパ大戦が勃發するや、獨逸本國からは勿論のこと其の占領地域内からユダヤ人は追放されることになつた。彼等の落ち行く先は何處か？ 假面の自由國北アメリカ合衆國を第一とし南アメリカ地方へ向つたのである。そしてアメリカはユダヤ人の第二の國たる觀を呈するに至るであらふ。そして益々ユダヤ人の暗躍が活發化するであらふ。

6 ユダヤ民族の國家破壊

迫害に迫害を蒙つてゐたユダヤ人の内でもロシアにあるものが何處の國よりも一番ひどい虐待を受けたものであつた。千九百五年の日露戦争直後のロシアに於けるユダヤ人虐殺は歴史上に於ける最大の悲劇であつた。當時虐殺されたものは何萬

人と云ふ數に上つたと云はれてゐるが、それこそ随分ひどい迫害を受けたものであつた。

従つて、かうした大悲慘事をおこした次に來たものは結局、帝政ロシア轉覆の一大革命運動となつて現はれることになつたのである。千九百十四年即ち大正三年の夏にヨーロッパ大戦が勃發するに至るや諸外國に亡命してゐた、ニダヤの秘密結社の議員は陸續としてロシア本國に入り込んで來たのである。

當時ロシアは貴族と貧農よりなつてゐた國であり農民はひどい壓制下にあつたので彼等は此の農民に目をつけ又食ふや食はずの有様であつた工場労働者に目をつけた。そして盛に反戰運動とストライキを宣傳したのであつた。其爲に軍需品の製造能力は低下するし食糧品の増産が出来ず運輸機能が不活發になつてしまつた。又戦線には知らぬ間に反戰ビラがばらまかれた。其ために農民出の多い兵士達は全く戰意を失つてしまひ遂には戦争を續行することが出来なくなつたのである。

其の結果ロシアは大戦の半ばにしてドイツと休戰條約を結び戦線から將兵を本國に

引上なくてはならない破目に陥つたのである。

かうして本國に引上て來た將兵は敵に打つべき彈丸をザ一の居城に向けブツ放す。地主、資本家等を倒すことになり大正七年には遂にレニン一派の率ゆる共產主義者の指揮の下に長い歴史を持つ、帝政ロシアを目茶苦茶に破壊し去つてしまつたのである。

レニン彼こそは生粋のユダヤ人であり又彼の共力者として辣腕を振つたトロツキーもユダヤの血を引く者である。勿論彼等を取捨く一國の者達がユダヤ人であつたことは申すまでもないことである。

斯くの如く帝政ロシアはユダヤ人の爲に、又其の唱導する共產主義の爲に轉覆してしまひユダヤ人であるレニンが先づロシアの主權を握ることになつたのであつた。

これをよく考察して見るとユダヤ人と云ふものは彼等が祖國としてゐるパレスチナの建設以外に別なユダヤ國を成立したわけである。尙そのみではないソ聯の極東地區、滿洲國に接した所にはユダヤ自治領なる特別區域までも作り上てゐるのである。

序に達（た）てておくが會（あ）つてスペインの内亂（ないらん）に當（あた）り右翼黨（うよくたう）のフランコ將軍（ふらんこしやうじん）に對抗（たいかう）した赤色政府軍（しやくしきせいふぐん）なるものの中にはロシアから派遣（はけん）された所謂義勇兵（ごうゆうへい）なる者が可（か）なり澤山（たくさん）あつた。結局（けつくり）に於（お）てはフランコ軍（ふらんこぐん）の大勝利（だいしかり）に歸（かへ）り新政權（しんせいけん）を樹立（じゆりつ）することになつたのであるが、あの數年（すうねん）に亘（わた）る内亂（ないらん）は全くユダヤ人（よだやじん）の策謀（さくぼう）によるものと認（ま）めることが出来るのである。内亂（ないらん）のある所（ところ）、必ずユダヤ人（よだやじん）ありと云（い）ふも過言（くごん）ではないであらう。

ユダヤ人の危険性

吾人の覺悟

ユダヤ人（よだやじん）は、これまで何（なん）か此世（このよ）に重大事件（じゆうだいじけん）の起（お）くことを切望（きつぼう）し念願（ねんがん）してゐた。そしてそれを絶好（ぜつこう）の機會（きかひ）として自己（じこ）の安全地帯（あんぜんちたい）を建設（けんせつ）しやうと考（かんが）へてゐた。

併（しか）し、これは次第（しだい）にユダヤ人（よだやじん）に對（たい）する迫害（はくさい）の度を増（ま）すことになつた。即（すなは）ち何か事變（じへん）

の生ずる度にユダヤ人を嫉妬する心持が諸民族の間に濃厚となつて來た。又民族意識を高潮せしめることになつた。故に今日のユダヤ人達は何か此世に事件の起るといふことは損のいくことも考へて來た。それが何やら多くのユダヤ人達に納得出来るやうに至つたやうである。今次のヨーロッパ大戦勃發はユダヤ人にとつての警戒であり大損失となつてあらはれた。彼等は命からがらヨーロッパを後に離脱と避難して來た。長年に亘つて築き上げた權益も、いやおうなしに放棄せねばならないのである。これは決してユダヤ人にとつて利益である筈がない。

然しこれを以てユダヤ人怖るゝに足らずとして警戒しなくてもよいかと云ふに決して、さうではない。寧ろより一段の警戒を拂ふ必要がある。何故かと云ふならば若し人々が心をゆるめて隙をつくるならばユダヤ人は直ぐ其の隙に乘じて來るのが彼等の傳統的やり方である。

成る程ユダヤ人は水草のやうに流れの間に／＼漂つて動いて行くけれども、それはユダヤ人の内でも最も地位の低い、物の數でもない何百萬人の人間のことである

が、彼等の中には強大な財力を持ち根強く財界を抑へ或は政治網に喰ひ込んでゐる實に稀るべき者のあることを忘れてはならない。

特に財界に根を張つてゐるユダヤ人達は何れも實直な態度を固持してゐるかのやうに見える。そして何事に對しても極めて淡泊のやうに嘖じさせながら相手の裏を掻く最も巧妙な手段を用ふることを充分心得てゐる。それが彼等の金科玉條である。

よし常に親密な間柄でありながら相手から何んの利益も得られないと知れば直ぐ様絶縁し見切を附けてしまふ。自分が關係する幾多の事業に於ける利害の觀點から世のあらゆる現象の相互關係に鋭い眼を持つてゐる。彼等は實によく其間の事情を心得て甘くやつて除けるのである。其の持つ金の流れを轉じて意のまゝに行動し得る人間なのである。これが他民族の憎惡の的ともなるのである。

「何か價値のある人間は必ず憎惡されるものである。すこしでも異色があつたり頭角を現はしてゐる者は常に憎惡と戦はなければならぬ。結局我々が憎まれるのは自己の偉大さや信用状態を示すことにほかならないのだ」と云つて自負してゐるのがユ

グヤ人である。

先年支那の幣制改革に當つて英國政府の指金によつて活躍したリースロスと云ふ老人は勿論生簾のユダヤ人であるが、彼の實施した法幣の發行は支那の銀行にあつた大部分の銀塊を英國に持ち去つてしまつた。蔣介石政権下に残つた物は結局何の價值もない紙屑に等しい紙幣のみになつたのである。ユダヤ人の怖るべき策謀は大いに堪へて見る必要があらふ。又支那に投資してゐる英國資本家の中で目ぼしい者は大抵ユダヤ人である今次の事變で有名になつた彼の上 海に在るガーデン、ブリッヂを渡つた所のブロード、ウエーマンションなる二十四層樓の大ビルを經營してゐたサツスーンはユダヤ系である。こんな事を一々列挙すればユダヤ系のもものは随分澤山ある。

千九百四十年九年三日（昨年）英佛が對獨宣戰を布告したが、此の布告に先だつて三年前の四月二十七日に英國政府は其の定例閣議で今後三ヶ年間に八千萬乃至九千萬に上る航空機を設備することを議してゐるが、英國は獨逸との衝突を豫想し、航空機の整備によつてヨーロッパを世界の航空制覇を斷行しやうと云ふ腹であつたと想像さ

れる。そして彼等の全世界に散在する自己の權益擁護を目的としたのであるが結局はユダヤ人によつて占められてゐる權益擁護に他ならないものであり又それはユダヤの策謀に出發したものと見られる。

紳士の假面を被り常に世界の平和を唱へてゐたイギリスのやり口は世界平和攪亂の禍因をなすことになつた。今日の英國も又ヨーロッパ大戦への参加一步手前に進んでゐるアメリカ合衆國も共にユダヤの謀略におどろロボットである。

今日の世界的事象の背後にあるものは何づれも、軍事的にも經濟的にもユダヤ禍の色彩あることを見のがすことは出来ない。

今や日本は大東亞共榮圈の確立の爲に勇往邁進してゐる。此の大東亞の建設は結局世界平和の整調維持に寄與する所が大である。其の責任が吾人にかけられてゐるのである。

かうした立場にある吾人はユダヤの陰險なる術策に陥るやうなことがあつてはならない。吾人はありとあらゆる方面に向つて嚴密な觀察と檢査を加へ吟味に吟味を重ね

て毅然と廣く世界の事象に對處して行かなくてはならない。

(終)

木子
玉
蘭



江島四郎

江島四郎



奇

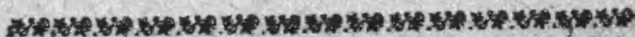
禍

醫員が一人缺員になつたので、日曜日もよくつぶれた。青木は久し振りの日曜日を郊外に暮らさうと王府井にある同愛病院の宿舎を出て洋車を東西牌樓を経て朝陽門まで走らせた。

北京は樹の都とも云ふべきで幾本となくある街路樹のアカシヤには、もう眞白く小さい花が——綺麗とは云へないが一杯に咲いて居た。

此處二三日は暑氣が一段と増してゐることは道路のアスファルトから立つ熱氣にも充分感じられたが、もうすつかり北京の夏に慣れてゐる彼には、それ程の暑さにも感じなかつた。

青木は朝陽門で洋車を棄てると通州街道を八家莊の村まで歩いて行く事にした。何時もなら景山か北海にでも遊びに行くのであるが、今日に限つて彼は八家莊村の田舎の空氣を思ふ存分吸つて見る氣になつて何の變哲もない此の淋しい村を散策の場所に選んだのであ



つた。強いて云ふならば道路から見える、あちらこちらの畑中に遺つてゐる昔の寺の趾を尋ねて見るつもりだつた。

北京の高い城壁がやつと眼界から見えなくなる頃になつて、青木は本街道から畑の中の小路に足を踏み入れて所々に立つてゐる農家の前や裏を通り抜けて汗を流した。

白大理石の門柱や裝飾——何千年か経つたであらう昔の寺の趾を次から次へと探つて見た。

高粱や唐もろこしは體の高さ程に伸びて、それを微風がザワつかせてゐた。青木には、こんな郊外が何となく平和其のものゝやうに感じられて暑さなどすっかり忘れて只あちらこちらとぶらついてゐた。

やがて彼が土で塗り固めた支那獨特の少し大きな一軒の農家の近くまで来た時である。

突然何處からともなく數發の銃聲を聞いた。ほんの一瞬间の出来事である。青木は右肩に激しい衝撃を受けてアツと云ふ間もなく路傍にブツ倒れた。白い麻の背廣が急に赤く染まつて来たことに彼は氣がついた。それまでは彼は確かに覺えてゐた。併しそれから後は青木は只物荒い靴音を夢か現のやうに耳にしたのみであつた。

時は昭和十二年六月末日の出来事である。



ベッドの上

青木は真白い洋室のベッドの上で眼を醒した。と云ふよりもそれは意識を取り戻したと云つた方が當つてゐる。彼は急に右肩のあたりがズキ／＼と痛むのを感じた。併し先づ死ななくてよかつたなと思つたが、人事不省に陥つたことは一寸だらしないと思つた。

確かに自分の右肩は繻帯でしつかりと巻いてあつてヨードホルムらしい臭さへしてゐた。枕元にはカットグラスの花瓶に造花が挿してある。高い書棚らしいものゝ上にはモールで造つた人形などが飾つてあつた。

青木は自分の寝かされてゐる所が何處であるのか少しも解らなかつたが、何となく日本人の住む家のやうにさへ思へた。何時連れられて來たのか、それは解らないが、もう三時間や四時間は経つてゐるやうに思へた。

青木の頭の中では八家莊村での出來事が次から次へと思ひ出された。あんな所に匪賊の出る筈もないし冀東地區には蔣介石の直系軍人の一部が入り込んでゐるとは聞いてもゐた

が、それはこゝ一月や二月の事ではない。若し事を起すとなれば、もうとつくに起して居なければならぬ筈である。今日の出来事も何かの誤としか思はれなかつた。

それにしても数發の銃聲を一度に聞いた事から見れば一人のやつた事でないことは明白である。確に青木は耳元に物荒い數名の靴音や銃劍の音さへ聞いてゐる。

併しやつと青木が思ひついた事は最近一寸耳にしたことのある保安隊の中の不良分子が日本人に對する反感からやつた事ではないかと云ふことであつた。

奇

遇

兎に角、先づ自分の身が安全だつたと内心よろこんだものゝ一体、今彼は何處に居るのか、それを確めたかつた。

『誰方が居られますか』

青木は少し大きな聲で呼んで見た。

『ハイ』

と奥の方で答へると間もなく面長の眼鏡をかけた断髪の上品な女性が入つて來た。眞白い支那服を纏つた二十二、三の令嬢風の女である。腕には翡翠らしい輪をはめてゐた。其の瞬間、彼女の切長な大粒な眼と高い鼻に青木は何處かで見た事があるなと思つた。

併し何處で見たのか青木には何うしても思ひ出せなかつた。

彼女は青木のベッドの傍に寄つて來ると、

「お氣づきでしたか」

とニツコリ笑つた。

「はい有り難う。色々とお世話様になります」

と、青木は心から感謝した。

「大變な事でしたわね。随分傷が痛みますでせう。お醫者さんは二三日は絶対に安静にしてゐなくてはと云つて歸られました。けれど傷は大したことはないさうですから御安心なさい。所で青木さん貴方は何時から北京コチンに來て居らつしやるのですか」

彼女は青木のことをよく知つてゐるらしいのである。

青木は只見覚えのある女だといふ位の程度なのに彼女は青木であることを、ちゃんと知つてゐると見えて慣々しい態度と好意を示した。



其處で彼は聞いて見た。

『貴女は誰方でしたか。僕は確か何處かで貴女に御目にかゝつたやうに思ひますが』

『妾——其後随分變りましたから、もうお忘れになつた事で御座いませう。東京では色々と御親切にお世話になりました』

彼女は東京時代を懐しむやうに云つた。此の言葉を聞いた時青木は今まで忘れてゐたことを、やつと思ひついた。

『さうく、ちや貴女は李玉蘭さんでせう』

『さう妾、玉蘭ですわ。よく覚えてゐて下さつたわね』

さう云つて彼女はニツコリ笑つた。

『あの頃、貴女は随分會話が上手でしたわね。僕は何時も、あの洗練された貴女の會話に感心してゐた一人です トーマス先生も貴女のことを随分賞めて居られました。僕など到底寄りつけられるものではなかつたね』

青木は世辭ではなく實際思つてゐたことを素直に云つた。

『お恥しい位です。東京時代には土地不案内な所を色々と御案内下さつて、未だにあの頃の事は忘れる事が出来ません』



彼女は心から云つた。

李玉蘭と云ふのは青木の東京時代に知つた中國の明朗な女性だつた。當時青木は慈愛醫專の學生だつた。

そうして時々、三崎町にあるトーマス、エッチ、ブレナンの經營する實業英語會に會話の練習に通つてゐた。玉蘭も其處へよく會話の練習に來てゐた。彼女はセントポール女學院の生徒で明朗な理智の勝つた女學生だつた。又實業英語會の花形でもあつた。

或日の事だつた。さうだ四月の廿九日か三十日であつたかと思ふ。はつきり記憶はしてゐないが青木は其日に限つて誰よりも早く會の方へ出席した。しばらくして階段をトン／＼と上つて來る者があつた。それは李玉蘭だつた。彼女は先着の青木を見ると、

「グット、イブニング、マイ、デア、フレンド」。

と呼びかけた。青木もそれに答へて、

「グッド、イブニング」

と云つた。

青木は玉蘭を相手に下手な會話をとばしてゐた。併し何時まで待つて居ても他の同僚達は來なかつた。日曜日でもないのに何うした事だらうと青木は不思議に思つた。彼は玉蘭



を見て、

「キユリアス、ナイト」

と云ふと、彼女も又

「キユリアス、ナイト」

と答へた。

其の内にやつと青木は自分が、うつかりして居る事に気がついた。丁度其の日は靖國神社の祭典で坂上には色々の餘興があることを知つた。其の頃こんな日などに藝などに來る程の眞面目な者は殆どなかつた。

手持不沙汰の青木は彼女を誘つて外に出た。無論目的の地は九段だつた。

九段には澤山の電燈がついてゐて晝のやうに明るかつた。彼女が李玉蘭であることも實は其の時始めて知つたのである。

青木はまさか彼女が中國人であらうなどとは其の時まで少しも知らなかつた。全く玉蘭は中國人ばなれがしてゐた。併し、よし彼女が中國人であらうと青木は彼女を少しも輕蔑する氣にはなれなかつた。寧ろ一種の尊敬をさへ拂つてゐた位である。彼女の端麗な容姿と洗練された日本語や英語の前には流石の青木も頭が上らなかつた。

青木達は九段の夜店を次から次へと見て廻つて二時間程して元の道を神保町の交叉點まで引き返した。

此の時以來、青木と玉蘭との間に何時とはなしに親しい交際が始まつた。

わかれ

「ね——」

珍らしく綺麗に澄み渡つた六月初旬の日曜日だつた。梅雨の時期だと云ふのに蒸し暑さは少しもなかつた。

玉蘭は青木に寄り添つて、武蔵野の原を上板橋から大谷口の方へと歩いてゐた。静かな埃の立たないよい道だつた。「ね」とは云つたものゝ、しばらく黙つてゐたが思ひ切つたやうに玉蘭は言葉をつづけた。

「妾は此の春、女學院の方は卒業したのですが、日本の土地のよさに未だに、かうして東京に居残つてゐるのですが、今度北京の母から手紙が参つて何うしても歸れと云ふの

よ」

と淋しい笑顔をした。

『それは結構な事ではありませんか、學成り業を終へて國へ歸ると云ふことは僕は貴女のために大いに祝福しますわ』

青木は一寸淋しいやうな氣はしたけれども、そんな事を云つた。

『え——』

玉蘭は少し驚いたやうな口調になつて、

『所が妾は東京で女學校程度を出ただけでは満足し切れないの。少くとも専門學校位は出て置かなくては何んにもならないと思ふの』

今度は眞剣な氣持で玉蘭は云つた。併し彼女が内心何を考へて居るのか、それは秘して云はなかつた。

『ぢや貴女は將來、職業婦人にでもならうと云ふのですか。女學校だけでも立派なものぢやないですか』

と青木はあたり前のやうに云つた。

『今では中國でも特に北京は大分變つて來ました。職業婦人になる者が随分増えて参り



ました。小學校程度や女學校程度の學校を出て働いてゐる者も澤山ありますが——そんな人たちは私の眼から見れば輕蔑したくなりますよ。何うせ職業婦人になるならば立派に男子と伍して行けるだけの仕事をやつて見たいと思ひますの」

玉蘭は、なか／＼確りした態度で自分の思ふ所を述べた。

『貴女は偉い、流石に大陸から留學して來ただけあります。併しそれも考へものではないでせうか、女には年頃と云ふものがあります。職業婦人になつて働くのもよいでせうか、それは、さうしなくてはならない境遇の人達の考へなくてはならないことで、貴女には其の必要がないではないでせうか。少しも早く良縁を得て家庭の人となることの方が幸福ではないでせうか』

青木は日頃自分の持つてゐる意見を其のまゝ述べた。

『それは一面、貴方のおつしやる通りで御座います。母の早く國に歸れと云ふのも、つまり結婚に關係した事らしいのよ』

と玉蘭は何と云つてよいか解らないやうな顔をしてしんみりと云つた。

『ぢやお母さんのお心持を汲んで一日も早く國へ歸るのが一番いいですね』と青木は云つた。

玉蘭はもう何も云はなかつた。只黙々として思案顔をして道を歩いた。碧空には鳶が輪を描いてゐた。池袋まで来ると青木は玉蘭と別れた。

其の後青木は玉蘭を誘つて井ノ頭公園に遊んだり多摩川にドライブしたりしては日曜を送つた。併し二人の間には凡そ戀などと云ふやうなものは生じなかつた。只單なる親しい友人としての交際に過ぎなかつた。

其の内に玉蘭は何時とはなく會の方へ出席しなくなつた。歸國したのか、それとも未だに東京に居るのか青木には解らなかつた。

青木も學校の方が忙しくなつたので會へ出席する閑がなくなつた。半年も経たない内に青木の頭の中から玉蘭の姿が消えてゐた。

美しい友

其の翌々年である。青木は慈愛醫事を卒業すると、しばらく附屬の醫院の内科に勤めてゐたが昭和十一年の四月に世話する人があつて大陸に渡つて北京の同愛病院に勤務するこ

とになつたのである。

其の頃は病院の方も割に閑だつたので青木は日曜日毎に名所や舊蹟を尋ね廻つた。北京の町は平和だつたので青木はよい所へ来たものだと思つて愉快に暮した。

併し今、彼はかうしてベッドの上に傷の身を横へてゐる。玉蘭の家の人達は、ひどく彼に親切だつた。肩に受けた傷も二三度の醫者の手當で殆ど癒つてしまつた。

二週間も経たない内に彼は室内を歩き廻ることが出来るやうになつた。所が玉蘭の家の人達は外出することを許さなかつた。退屈で仕方のない身を彼は其の後幾日か室内に送つた。庭にも出て遊んだ。

高い煉瓦塀に圍まれた玉蘭の邸内は随分廣く、建物なども幾つかゴテ／＼と建つてゐた。それによつても玉蘭の家が可なりの財産家であることが解つた。大きな杏の木の下からは、米人經營のホテルの屋根が見えた。それには青木も見覚えがあつた。玉蘭の家が朝陽門内の燒酒胡同にあることがやつと解つた。

勤めの身である彼は一日も早く病院に歸りたかつた。友人達も必ず心配してゐるにちがひないと思つた。

やつと青木が病院に歸ることになつたのは傷を受けてから一ヶ月半以上も経つてからで

あつた。其の時になつて青木は始めて蘆溝橋で日支兩軍が衝突して戦争になつたことや、
廊坊や豊臺の戦ひの事、或は通州事件などのあつたことを知つたのであつた。

上海にも未曾有の激戦が展開されてゐることを知つたのである。玉蘭が何うして青木を
家の外に出さなかつた理由も始めて解つたのである。玉蘭の此の親切に對しては何と感謝
してよいのか、わからなかつた。

街には秋らしい風が吹いて空は限りなく晴れ渡つてゐたが、九月近くの北京はまだ、
暑かつた。街にはこれまで見たことのない程の日本軍のトラックが走つてゐた。

東西牌樓から王府井へかけての道路には澤山懐しい日本兵の姿を見受けた。

青木は久し振りに同愛病院の門をくゞつた。友人一同は彼の無事な姿を見て心から嬉し
んで呉れたのは勿論である。翌日には王府井のホテルに青木を招待して彼のために一夜祝福
の宴を張つて呉れた。

此の席で青木は思ひ切つて李玉蘭を看護婦長として採用して貰ふことを切り出して一同
の承諾を求めた。誰一人としてこれに反對するものはなかつた。

親日の玉蘭を採用することは大陸建設の第一歩でもあるといふので大いに嬉んで呉れ
た。

今、玉蘭は青木のよりよき助手として同病院に涙ぐましい働きを續けてゐる。

青木と玉蘭との間には戀愛などと云ふものは決してない。これだけは青木のためにも

玉蘭のためにも斷つて置く。只美しい魂の賣した結果である。

北京に旅する人々よ。日曜日あたりに景山か中央公園か或は萬壽山あたりに杖を曳くことがあらずば必ず長身の年若い日本人と白哲明眸の中國の女性とが連れだつて歩いてゐるのを見るに違ひない。それは先づ青木と李玉蘭の二人だと思ひ給へ。

(終)

青年の言葉

青年らしき若々しき
が盛りに溢れ、然かも
て反省の確なものを把
握する特異な新書／＼
B六判二一〇頁
価 一
送料九銭



現代女性眞實の告白書 娘の言葉

B六判二一五頁寫眞入美本
価 一
送料九銭

父に、母に、師に、兄に姉に、男性に、友
達に、そして妹に！娘は何と訴へたか

青年の言葉 第二集 募稿原

御愛護下さった皆様だつて、きつと何か言ひた
い事があるに違ひありません。そしてそれは人
々の爲に、貴方の本心を書いて御送稿下さい。
薄褒作は第二輯に収録し、天下に發表した上、
薄褒作は第二輯に収録し、天下に發表した上、
定規 一、必ず自分の創作である事
二、必稿枚数に制限なし
三、必稿枚数に制限なし
四、必稿枚数に制限なし
五、必稿枚数に制限なし
六、必稿枚数に制限なし
七、必稿枚数に制限なし
八、必稿枚数に制限なし
九、必稿枚数に制限なし
十、必稿枚数に制限なし

(新刊) 江島四郎著 全国書店發賣！
怖るべきユダヤ民族の正体 價 定 三十銭
怖るべきユダヤ人とは？一讀その全貌がハッキリわかる、時局
下特に一讀さるべき書。尙附録に、創作「李玉蘭」を掲載して
益々好評。部数限定に付、實切れざる中、速刻書店又は發行所へ
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
(近刊) 京城市大教授 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)
報ゆるる生活 佐藤幸典著 定價三十銭 (送料六銭)

娘たちの清純な抗議と
愛情に耳を傾けよ！

結婚と聖域の前に立つて近代の女性ほど
んな身だしなみを見せるか、心の底を
見せるか、情感に充ちた言葉を吐くか！
愛はしい情操と、明朗な語調と、健康な
血流と、新鮮な感覚と……
ここに新しい女性が生まれようとしてゐ
る。

愛知縣河東郷下局
希 望 の 窓 社 出版
(香〇六二一三一屋古者管振)

昭和十六年九月二十五日印刷
昭和十六年九月二十五日發行

〔定價 金三十錢〕
(送料三錢)

著作者

愛知縣 江 嶋 四 古 齋



發行者

愛知縣 夏 目 寅 義

不許復製

印刷者

愛知縣 藤 田 庄 太 郎

印刷所

愛知縣 藤 田 印刷 所

發行所

愛知縣南設樂郡東郷村
希望の窓社

(日本出版文化協會員・第一〇七〇二六號)
振替名古屋一三二六〇番

配給元

東京市神田區淡路町二丁目九番地
日本出版配給株式會社